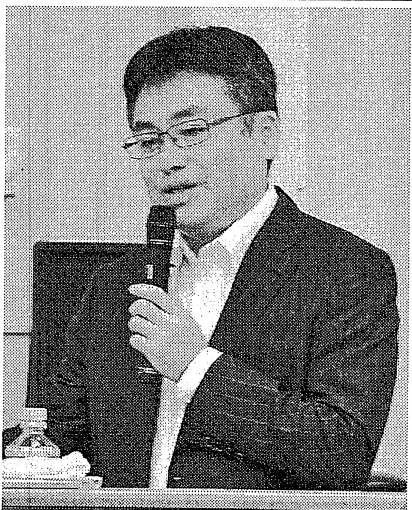


平成26年8月5日(火)  
陸奥新報

事業の途中経過と課題を報告する高山氏



## COI推進の課題は

東北大  
リサーチ  
高山氏が経過報告 弘 大

弘前大学と県、民間企業が連携して脳卒中や認知症の早期予兆発見、予防法の開発に取り組むプロジェクトの経過を報告した。

研究拠点「COI拠点研究推進機構」事業の一環で、同大は4日、同大大学院医学研究科で第3回弘前大学COI特別講演会を開いた。今回は、東北大学COI拠点プロジェクトリーダーで東芝フ

収集し、生活習慣病などの原因解析を目指している。

高山氏は、同事業への取り組みについて説明。課題の一つに情報のデータバンク化を挙げ「個人の健康データでは価値は低いが、多くの情報を集めて医療機関や製薬会社へ提供することで、これからの健康の維持や増進活動につながっていく」と述べ、事業の意義を強調した。

(下山静香)

東北大や東芝などが連携して取り組んでいる事業名は「さりげないセンシングと日常生活ドッグで実現する理想自己と家族の絆が導くモチベーション向上社会創生拠点」。

体内に超小型センサーを入れるなどして食生活や睡眠状態、体温などの総合的な観点から健康に関する情報を